

# 電気のふるさと



特集

「協働」と「連携」によるまちづくり⑩ ～兵庫県神河町長谷地区の地域活性化事業～  
高齢化率4割の地域で交流拠点として機能する  
「ふれあいマーケット」

■わがまち自慢 ～町長室から～  
山口県上関町

# わがまち自慢

## 町長室から



かみのせきちよう  
山口県上関町  
かしわぼら しげみ  
柏原 重海 町長



## 「海の町・上関」の豊かな海の幸

上関町には、嬉しいことに海があります。これは私たちの財産です。町内の『上盛山展望台』からは、瀬戸内海の素晴らしい眺望が、本州はもちろん、四国、九州まで360度見渡すことができます。

『防長三閩』と言われる、かつて海上交通が主要な交通手段だった時代には、村上水軍のお城が築かれたり、朝鮮通信使の寄港地になるなど、ずいぶん栄えていました。町内の細い路地には、当時の街並みの雰囲気が感じられます。現在残っている史跡は少なくなっていますが、この辺りは全部白壁の町でした。

また、祝島の『神舞』は、1,100年余りの歴史を持っており、山口県と大分県の2県にまたがる大きな海の祭りとして、県の指定無形民俗文化財となっています。そうした海の町・上関ですが、昔は農業中心の町でした。戦後、時代と共に交通機関が発達し、広島など大きな市場に出荷できるようになり、漁業も基幹産業となってきました。

上関町の周辺は、豊後水道から大きな潮が入る魚の宝庫です。ですから、魚はおいしい。山口県では、河豚のことを幸せの「フク」といいます。昔は沿岸でよく獲れました。町内の老舗旅館に「フク」を目当てに、中には結構遠くから飛行機やクルーザーで、お客さんがいらつしやいます。

ふるさと納税のお礼にお渡ししている「車エビ」もおいしいと評判です。車エビをお礼にしている地域が少なく、希少価値があるとただ、これからの沿岸漁業は大変厳しくなると思っています。我々や特に先輩の時代は、メバルなどの瀬戸内のおいしい魚の需要が高かったものです。

ところが今、魚離れが進み、後継者不足も深刻で漁業を取り巻く環境は決して明るくありません。ですから私は、「朝日を浴びて出漁する漁師魂だけは忘れてはいけないが、これからの漁業は定置網なども手掛けて、蓄養等による出荷調整や加工に取り組みなど、水産業にしていかなければならない」と若い漁師さんたちに言っています。

今、本格的に取り組めばいいと思っているのが、アワビの養殖です。アワビは1年で、ちよつとした値がつきます。アワビを1年育てれば、一口アワビになります。3年育てれば、市場に出せます。アワ

## 「漁業」を「水産業」に

ただ、これからの沿岸漁業は大変厳しくなると思っています。我々や特に先輩の時代は、メバルなどの瀬戸内のおいしい魚の需要が高かったものです。

また、祝島ではピワやミカンの生産が盛んで、特に「祝島のピワ」は今ではブランド化され、この辺りでは有名です。しかし、そこまでのものになるには、長い年月と農家のご苦労があつたと思います。

また、祝島ではピワやミカンの生産が盛んで、特に「祝島のピワ」は今ではブランド化され、この辺りでは有名です。しかし、そこまでのものになるには、長い年月と農家のご苦労があつたと思います。

また、祝島の『神舞』は、1,100年余りの歴史を持っており、山口県と大分県の2県にまたがる大きな海の祭りとして、県の指定無形民俗文化財となっています。そうした海の町・上関ですが、昔は農業中心の町でした。戦後、時代と共に交通機関が発達し、広島など大きな市場に出荷できるようになり、漁業も基幹産業となってきました。

ところで、先日、週刊誌にも掲載されました。また、瀬戸内海の魚のすり身のてんぷら(さつま揚げ)は、昔から食卓にありました。焼うどんに具材として入れたり、そのままみんなで食べたり。よく食べました。今では人気の特産品になっています。

神舞は4年に一度、祝島で行われる神事で、山口県指定無形民俗文化財



ふるさと納税で人気の「車エビ」



国指定重要文化財の『四階楼(しかいろう)』は幕末の志士小方謙九郎が建てた擬洋風建築



# 発想が町を変えていく

城山歴史公園には、春先にきれいに咲く河津桜を目当てに、多くの方が訪れます。もともとは地元住民の皆さんの憩いの場を作ろうとして整備しました。その際に植えた河津桜がきれいなので、マスコミがよく取り上げてくれます。

国の支援を受けて、2011年に温浴施設『上関海峡温泉 鳩子の湯』がオープンし、2014年に『道の駅 上関海峡』が開業しました。そこに隣接して2015

年5月にオープンした『総合文化センター』は、地元の方のための施設ですが、町外からも訪れていただき色々なコミュニケーション活動をしていただくこともできます。

去年の夏、上関に寄港したオーストラリア人の夫婦に話を伺う機会がありました。ヨットマンの仲間内では、上関が寄港地に良い、ということがインターネットで広がっているそうです。理由は、『鳩子の湯』で温泉に入れる、おいしい食べ物がある、水、燃料の補給ができる、そして人がいいと。上関の魅力は海ですから、『道の駅』に『海の駅』という発想を重ねることで、そういう方たちにも立ち寄っていただけるというですね。



上盛山の山頂からは、遠く四国佐多岬、九州国東半島が望める



昨年開業した『道の駅 上関海峡』



温浴施設「上関海峡温泉 鳩子の湯」

のコミュニケーションになる。最終的には、イベントで奇抜なことをやって、利用者が慣れてくると、また奇抜なことをやる。人が少ない町の「道の駅」ですから、観光型に変えるだけではなくて、現場の方に、そういう発想で頑張っていたで、そういう稼いで町に税を繰り入れるようになってほしい

と思います。

また「道の駅」には地産地消の商品が必要です。例えば、まだスイーツがありません。売り場はあるのですから、そこに希望があれば、町が支援してもスイーツを作ろうという気を起こさせたい。そうすると、町外の方に対する定住政策にもなる訳です。

有から有を生むことも容易なことではありません。ましてや、無から有を生むことは、最も難しいことかもしれません。しかし、それを実現するのは人の知恵であり、汗と涙の結晶があつてのものです。皆が力を合わせていけば、この町は変わっていくと思つていきます。

## 一致団結すれば未来は見える

1970年代に、「鳩子の海」というNHK連続テレビドラマのロケがありました。戦争のショックで記憶を失った少女が広島から上関町に流れ着き、成長していく姿を描いたドラマです。私も撮影のお手伝いをしました。ドラマでは、見ず知らずの子どもを育てるのですが、実際、上関町には優しい人が多いと思います。コンパクトな町ですから、皆、子どもの頃からお互いに知っている訳で、大人になつていがみ合うことにはならないですね。

会話ができるように。そうすれば、行った先でも自信につながるでしょうし、その先の道も大きく開けるでしょう。海外派遣なども人材育成として積極的に支援しています。フェンシングやヨットの大会では、日本代表で活躍する小学生・中学生が育ってきました。

明るい未来が見えると思えます。皆で一人ひとりが豊かになれば、その集合体が町ですから、そういう町を作ればいいのではないのでしょうか。今日を見て明日を語るのではなく、明日を見て今どうするか、みんな「志」を一つにすれば未来は見えてきます。(談)

大きな町とは違って、土日に小売店が閉まります。すると買い物に困る町民も出ます。そこで「道の駅」に行けばお弁当がある、魚がある、するとそこが一つ

上関町は小さな町なので、子どもの数が少なく野球にしてもサッカーにしても思うようにチームプレイができません。それを悲しんでも仕方ないので、子供が自信を持つようにしようと、義務教育で英会話を徹底的にやろうとしています。学力テストではなくて日常

この大きな流れに歯止めをかけると言っても、至難の業です。しかし、こういう時こそみんなが知恵を出し、力を出せば、



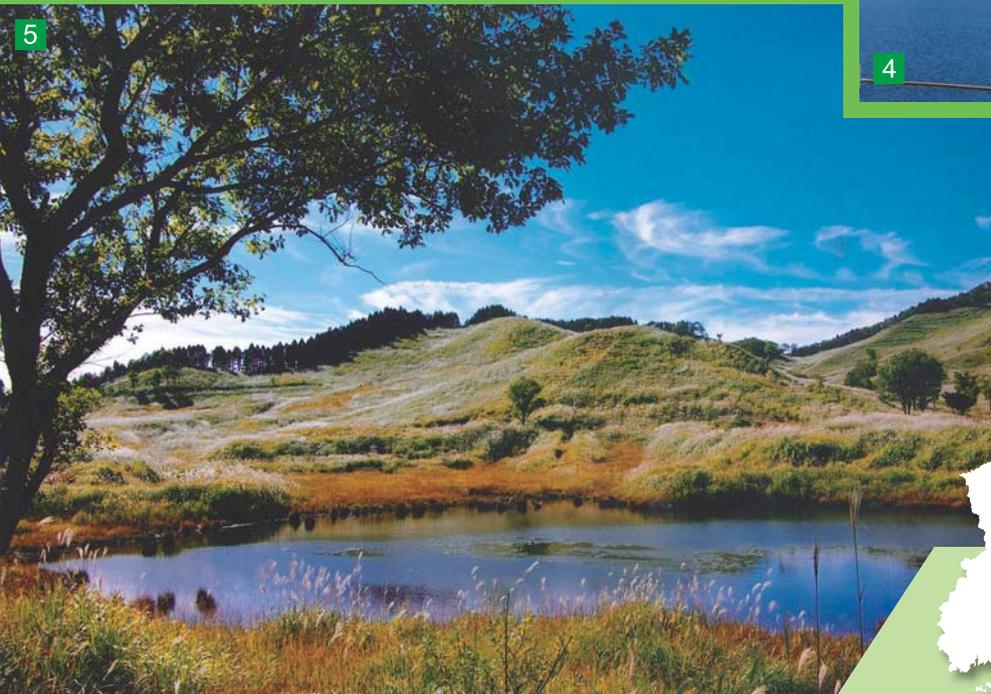
村上水軍の上関城跡に整備された城山歴史公園には河津桜が咲き誇る

「協働」と「連携」によるまちづくり⑬  
兵庫県神河町長谷地区の地域活性化事業

高齢化率4割の地域で交流拠点として  
機能する『ふれあいマーケット』



国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、中山間地を対象とした『小さな拠点』づくりを具体的な施策として挙げている。そこで今回は、兵庫県神河町長谷地区の地域拠点となっている『ふれあいマーケット』の取り組みを紹介したい。



かみかわちょう  
■神河町情報■  
【人口】12,019人(平成27年5月現在)  
【面積】202.27km<sup>2</sup>  
【発電所データ】  
関西電力(株)大河内発電所  
【本特集問合せ先】  
神河町 地域振興課 ☎0790-34-0185

【写真】 1 『村営ふれあいマーケット長谷店』の店内  
2 地域住民の生活には欠かせない  
3 スタッフは全員地域住民  
4 太田池  
5 秋の砥峰高原  
6 『ふれあい会館』に掲示されている写真

# 人口9000人足らずの地区に 2つの店舗

神河町は、兵庫県のほぼ中央に位置するハート型のまちだ。平成17年に、神崎町と大河内町が合併して誕生し、人口は約1万2,000人。町内に揚水式の関西電力(株)大河内発電所がある電源地域でもある。

町の西部の大河内高原エリアは、峰山高原や砥峰高原など関西有数

のもので、映画「ノルウェイの森」、大河ドラマ「平清盛」などのロケが行われたことでも知られている。姫路から北に播但連絡道路で約30分、JR播但線寺前駅前が中心市街地となる。そこから市川に沿って7kmほど北上すると、川沿いに民家が散在する地域に出る。この長谷地区は、川上集落や大

河原集落などの9集落で、人口約9000人足らず320戸ほどの、高齢化率が約4割という典型的な中山間地だ。その入口に、瀟洒なコンビニ風の店舗とガソリンスタンドが建っている。ここが「村営ふれあいマーケット長谷店」。さらに8kmほど川を遡上した川上集落にも「村営ふれあいマーケット川上店」がある。

こと、都会のコンビニとほとんど変わらない品揃え。最新式のドリッパーコーヒーメーカーも置かれている。お客さんも、午前中にもかかわらず、ぼつぼつと訪れている。

その横に併設されているのが、15坪ほどの「ふれあい会館」。椅子と机が配され、近くの住民だろうか、ノートパソコンを開きながら、談笑する姿が見えた。

## 地域住民による 店舗とGSの経営を模索

平成17年、『JA兵庫西』は、長谷地区にあった『Aコープ長谷店・川上店・ガソリンスタンド』



酒・たばこ・切手の販売も



『村営ふれあいマーケット川上店』  
【営業時間】平日11～17時 【定休日】木曜・日曜・祝日



『村営ふれあいマーケット長谷店』  
【営業時間】平日10～18時・日曜10～17時  
【定休日】木曜・祝日



『村営ふれあいマーケット川上店』の店内



長谷地区にある川上集落

を、店舗整理することを、総代会で決議した。JAにとって、ガソリン地下貯蔵タンクの改修時期にぶつかったことと、経営の合理化を進める中で、その苦渋の決断をせざるを得ない背景があった。

しかし、高齢化率4割のこの地区にとっては、燃料や食料品、日用品の確保は、死活問題といつてよい。当然、長谷地区の住民は、存続の要望を行ったが、経営合理化の波に逆らうことは難しかった。この状況の中、地域住民は、地域自ら

# 全戸出資による株式会社を設立

この視察の後、店舗等の運営や地域の活性化に向けて、組織を大幅に見直した『長谷地区の振興を考える会』（以下「考える会」）が誕生する。その指針は「長谷地区住民相互の連携を図り、住民の安心・安全な生活環境を守るため、地域の発展・振興に取り組む」というものであった。

しかし、店舗やガソリンスタンドの経営には、克服しなければならぬ様々な課題が山積していた。ガソリンスタンドの経営には法人格が不可欠。そこで、会のメンバーの中に銀行OBがいたこともあり、長谷地区の全世帯が出資す



株式会社長谷 代表取締役社長 藤原 幸夫 さん

る『株式会社長谷』を平成19年12月に設立した。まさに「地域の課題を地域で解決する」コミュニティビジネスの展開を開始したのだ。

初代の代表取締役には当時の「考える会」会長の大森康雄さんが就任。その後、平成26年5月から2代目会長の藤原幸夫さんが就いた。

「役場や民間の会社を退職したメンバーが多い会の中で、比較的に早く会社を退職した若い私に、白羽の矢が立ったのです」と藤原社長は言う。

ガソリンスタンドの改修や、店舗の建設、酒・たばこ・切手の販売許可を取って、翌20年2月に『村営ふれあいマーケット川上店』、3月に『村営ふれあいマーケット長谷店』を開設した。村営というのは、かつての「長谷村」「川上村」の地区住民のものという意味でつけている。

長谷店の横には、兵庫県の「県民交流広場事業」の補助金を活用



改修したガソリンスタンド。【営業時間】7時30分～19時 【定休日】日曜・祝日

して、コミュニティスペース「ふれあい会館」も併設した。

現在では、JA兵庫西の金融移動店舗車『につしい号』が、週2回、長谷店、川上店の駐車場に立ち寄っている。

この金融移動車は、衛星通信を使用しており、普通預金の入出金・記帳、共済掛金・購買代金の入金、税金・公共料金の支払いが可能。ちなみに、こうした金融移動車は全国各



『につしい号』の車内

JA兵庫西の『につしい号』



地のJAをはじめ、信用金庫などが、走らせているものだ。

また、JA兵庫西は各家庭を訪問し、相談・要望を聞き取り、対応する「ふれあい訪問係」を設置。同時に、神河町と「神河町安心見

## 自立に向けた様々な取り組みを開始

開設して約2年、株式会社長谷は大きな課題に直面することになる。ガソリンスタンドの収支は赤字だったが、店舗の赤字は累積していった。スキズのシーズンに多くの観光客が訪れる砥峰高原での移動販売など、様々な努力を行うも、事態は好転しなかった。

高齢化率が高く、商圏人口の少ない地域での店舗経営は簡単なことではない。商品の仕入れ先が少なく、廉価で豊富な品揃えが難しい。商品の売上だけで経営が成り立つほど甘くはなかった。

そこで、平成22年に行政からの支援もあって、役場の支所である『センター長谷』での住民票や印鑑証明の発給などの窓口業務を、町から受託した。

これは全国でも3例目となるものだ。これによって、人的確保をすることができた。

この間、『長谷地区の振興を考える会』では、店舗の経営を含め

守りネットワーク事業に関する協定書」を締結している。

こうして長谷店は、買物、燃料供給、金融、交流の地域のコミュニティ拠点として、新しく生まれ変わることとなった。

て、さらなる地域活性化や、自立化に向けて、様々な取り組みを模索していった。兵庫県の『ふるさと自立計画推進モデル事業』に応募。それに採択されると、「考える会」のメンバーで、店舗経営や、ここを拠点とした地域活性化策について討議を重ねていった。

その中から出てきたのは、「ふれあいマーケット」を基点として、ワゴン車で買物客の送迎サービスを行うもの。「川上診療所」の開所日や、金融移動車につしい号の立ち寄りの曜日に合わせて、買物客の送迎・宅配と同時に

地域の高齢者の安否確認なども行える。現在では、週2回、送迎車が地区内を走っている。



『センター長谷』の行政事務を受託

# コンビニ機能を持つ ボランティアチェーンへの加盟

「開店して5年目、大きな転機となったのは、『Yショップ』への加盟でした。商圏人口が少ない地域の実情を、加味してくれたのです」というのは社長の藤原さん。

これは、パンの仕入れ先でもあった、株式会社山崎製パンからの打診によるもの。『Yショップ』はコンビニ機能を持つ、ボランティアチェーン方式の小売店として位置づけられている。この方式は、フランチャイズ方式に比べると、販売ノルマがないことなど、比較的制約が緩やかで、加盟店の自主性を保つことができる。保証金は必要だが、指導料や販売促進費なども少なく済む。山崎製パンのネットワークを利用して、事実上、

都会のコンビニエンスストアと同等の、低価格で品質の良い商品を揃えることが可能となった。『Yショップ』への加盟によって、以前に比べて、店舗の粗利率は改善した。

とはいえ、販売努力は欠かせない。藤原さんを先頭にスタッフは、地域内のニーズを探りながら、様々なアイデアを出し合う。なかでも、『Yショップ』のネットワークを活用した、お中元の贈答品や、クリスマスケーキ、「うなぎ弁当」などの予約販売は好評だった。

昨年のクリスマスケーキの予約販売では『Yショップ』としては全国で7番目、関西では1番の売り上げであった。

現在の従業員総数は11名。すべて長谷地区の住民だ。ガソリンスタンド・店舗での販売、支所の事



月1回開催される「ふれあい喫茶」



併設する「ふれあい会館」の内部

務、送迎などの業務に携わる。

また、併設する「ふれあい会館」で、様々な交流イベントを開催している。中でも、農閑期の7ヶ月間に、月1回開催する『ふれあい喫茶』は人気のイベントのひとつだ。無理がないように、長谷地区の9集落が交代で担当して、手作りのメニューを用意している。多いときは150人くらいのお客さんが来る。

その他、「ほたる祭り」「収穫祭」「ふれあい市」など毎月のようにイベントを開催している。

「当町はイベント好きで元気な人が多いです。その背景には活発な自治活動があるのだと思います」

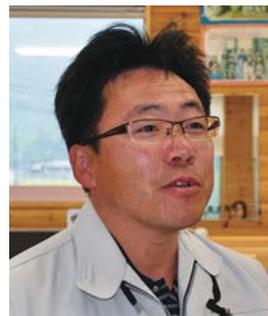
## 国が推進する『小さな拠点』づくり

「今年度はとにかく、店舗の収支を合わせていくことにつきます。近い将来、地域の農産物や観光資源を売ってコナラーを作りたいと思っています」と藤原社長は言う。

長谷地区の住民のほとんどは兼業農家だが、特産の「自然薯」をはじめ、野菜や米などの農産物をこの店舗で売る。ターゲットは、砥峰高原や峰山高原を訪れる観光客だ。地域で開発する特産品を売ってもよい。駐車場を拡大整備して小さな「道の駅」のようなもの

す」というのは、神河町地域振興課係長の岩田勲さん。

前述したように、町は「行政サービス事務の一部委託」などで自立化に向けた支援を行ってきた。店舗の経営を核に、様々なアイデアを出しながら、地域の活性化に向かう長谷地区の取り組みに、町は様々な支援で応えていきたい、と岩田さんは目を細める。



神河町地域振興課係長 岩田 勲 さん

にしたいとのこと。地域外の「外貨」を獲得する、新たな事業の展開も見据えているのだ。

平成26年12月に閣議決定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、具体的な施策が提示された。その中で、中山間地を対象とした施策の柱となるのは、『小さな拠点』（多世代交流・多機能型）の形成。

その背景には、この長谷地区のように、人口減少にともない、住民の生活に必要な生活サービス機

能が低下している地域が多く存在することがある。

国は「基幹となる集落に、機能・サービスを集約化し、周辺集落とのネットワークを持つ『小さな拠点』をつくる」ことを提案している。地域に、効果的・効率的なサービス提供体制を構築し、地域交流・地域支え合いの拠点としての機能を強化。そのうえで、必要な生活サービス機能を維持するとともに、地域の活性化を図ろうとするものである。

神河町長谷地区の取り組みは、まさに、この『小さな拠点』づくりの、先進的な事例のひとつとなっている。



近隣からも多くの人を訪れる「ふれあい市」

# 振興トピックス

このコーナーでは、主に電源地域の地域活性化に向けたソフト事業の話題を取り上げています。今回は、福井県高浜町、福島県桧枝岐村、石川県中能登町、岐阜県高山市、神奈川県小田原市の、ユニークな取り組みを紹介します。



## 高浜の「海文化」を築き 発信する事業を推進

福井県高浜町

地図 A

若狭高浜の海は、福井県海水浴場水質調査にて、毎年「A A」の最高評価を得ており、関西で最も人気の高いビーチのひとつとなっています。

高浜町では、城山公園エリアを中心に、ビーチアクティビティの充実や、安心・安全な海づくりのための国際環境認証「BLUE FLAG」取得などの取り組みを行っています。

今年度は「ビーチアクティビティ・メニュー」を拡充し、欧米で人気急上昇中の「スタンドアップパドル(SUP)」や「シーカヤック」などのスクールや



水質調査で最高評価を得ている透明度の高い高浜町のビーチ



シーカヤックのクルージング

クルージングに加え、洞窟めぐりや漁師ご飯を味わうなど、誰もが楽しめる体験メニューを用意しています。  
「高浜だから出来る、最高の“海の過ごし方をつくる!”とい



欧米で人気のスタンドアップパドル

うこの事業に注目が集まっています。

詳細な内容や申し込み予約などは、(一社)若狭高浜観光協

## 貴重な文化資源を守り伝える 「檜枝岐歌舞伎」

福島県桧枝岐村

地図 B

全国の24を超える地域で農民歌舞伎が開催されています。中でも、福島県桧枝岐村の「桧枝岐歌舞伎」は江戸時代からの歴史を持つ国の重要無形文化財となっています。衣装づくりから、化粧などの裏方もすべて村民が行っており、何世代にもわたって伝えられてきた、貴重な文化資源です。上演は年に4回で、8月18日に第3回目の公演が予定されています。この上演は、

鑑賞料無料となっています。詳しくは尾瀬桧枝岐温泉観光協会(☎0241-751-2432)までお問い合わせください。

その「桧枝岐歌舞伎」に挑戦する中学生の姿を描く記録映画『やるべえや』も注目されています。尾瀬の美しい風景とともに、若者たちが地域の文化資源を、懸命に守り抜こうとする姿が感動的だと評判になっています。



昔の雰囲気のまま、村人たちによって演じられる



親から子、子から孫へと受け継がれた伝統文化

## 「第2回中能登トレジャートレイルラン」

石川県中能登町  
地図

「トレイルランニング」とは文字通り登山道などの未舗装の山野を走るもので、専用のリュックに必要な装備を入れて走ります。近年、ランニングブームや自然志向もあり、新しいスポーツとして注目されているものです。

石川県中能登町では、昨年引き続き『第2回中能登トレジャートレイルラン』が来る10月25日(日)に開催されます。昨年は、全国各地から592人がエントリーして、大好評の大会になりました。

今年も昨年同様、プロデューサーにトレイルランニングの第一人者の鏑木毅氏(かぶらぎ いたし)を迎え講演会や前夜祭が開かれます。



全国から「トレラン」愛好者が集う



過酷なレースも最後は笑顔で



ブナの残存林を駆け抜ける

ゴールドコース(25km)、プラチナコース(40km)に加えて、50kmのコースも新設されました。コース上の、ブナの残存林や遺跡群・広々としたあぜ道など、農業遺産に指定されている、能登の里海の風景が満喫できるものとなっています。

お問い合わせは中能登町トレイルランニング実行委員会事務局(☎076717412806)【URL】<http://nakanoto-trail.info/>まで。

## 「ムスリム対応」でさらなる観光誘客を目指す

岐阜県高山市  
地図

いわゆる「ハラール・ビジネス」が注目されています。背景には2013年に東南アジア諸国のビザ発給要件が緩和されたことがあります。イスラム教徒の訪日観光客は毎年30%の増加を見せており、『2020年』を見据えて、さらなる拡大が予想されています。

「ハラール」とは、イスラム教の戒律に従う生活のガイドラインを指し、適用する対象は、食品から化粧品、医薬品、生活用品、金融、各種サービスまで多岐にわたります。周知のように、イスラム教徒は豚肉やアルコールの摂取などが禁止されており、過度な肌の露出も控えることとされています。

そうしたイスラム教徒の観光集客では、九州各地が先進地といわれていますが、岐阜県高山市では、民間の事業者が中心となつて官民一体の「飛騨高山ムスリムフレンドリープロジェクト」が展開されています。これは、イスラム教徒(ムスリム)を、おもてなしの心を持って、他の観光客と同じように、迎え入れようとするもの。飛騨高山の「雪」の風景や、食事、宿泊を楽しんでいただくため、市内の

若手経営者などが、イスラム圏観光客の受入強化に取り組んでいます。詳しくは高山市海外戦略課(☎057713057713213333(代))にお問い合わせください。



「雪」を楽しむ東南アジアの人々

高山市内で記念撮影



## 市民が選んだ『小田原みやげ』 小田原セレクション2015

神奈川県小田原市  
地図

小田原市では、「市民がオススメし、市民が選ぶ、小田原みやげ」という試みを行つています。平成26年2月に最終選考会が行われ、名産のかまぼこなどの練物から、和菓子、工芸品など33の商品が選定されました。

を良くしたいと考える業界関係者やバイヤー、支援機関等が連携して、地域内外に広くPRしたいという思いが結実した試みとなっています。

これらの商品は市民が選んだ『小田原みやげ』と呼ばれ、従来型の地域ブランド

お問い合せ…小田原市経済部産業政策課 地場産業振興係(☎046513311515)

認証制度とは異なる、市民が推薦し、選考を行うものとしては初の試みです。

お土産にしたい、贈答品にしたいという商品を市民が選び、小田原



パンフレットは、市内の観光案内所や公共施設などで無料配布

## 「宮城のホヤ」新お土産ブランド誕生 三陸女川「碧のか」

おながわちょう  
宮城県女川町  
地図 G

女川町では本年3月のまちびらきに合わせ、町内事業者が連携し、地元水産物を原料に常温保存・持ち帰りができ、手軽に買えるお土産ブランド「碧のか」を共同で立ち上げました。第1弾としてホヤを使った4商品（ほや生ジャーキー、ほやせんべい、ほや煮、さきほや）を開発し、町の観光PRにつなげる取り組みです。第2弾以降の商品も今後開発予定です。

「ホヤ」の魅力を伝える「碧のか」  
新商品と「ほや本」



目印の「のぼり旗」

### DATA

【お問合せ】復幸まちづくり女川合同会社  
【E-mail】info@onagawa.co.jp  
【URL】http://www.onagawa.co.jp/

## 宮中や幕府へ献上されてきた どうじょうはちやがき 堂上蜂屋柿

みのかち  
岐阜県美濃加茂市  
地図 H

岐阜県美濃加茂市で宮中や幕府への献上品として、1,000年以上もの昔から受け継がれてきた干し柿が、「堂上蜂屋柿」です。これは、蜂屋町が誇る堂上蜂屋という品種の柿を、伝統の技によって干し柿に加工したものをいいます。

「堂上蜂屋柿」の糖度は65度もあり、とろりとした果肉からあふれ出る、極上の甘みと濃厚な風味は、自然の恵みと作り手の情熱、そして伝統の技が結集した成果です。

### DATA

【お問合せ】美濃加茂市堂上蜂屋柿  
ブランド構築事業実行委員会 事務局  
☎0574-25-2111  
【URL】http://www.hachiyagaki.jp/



みずみずしい果肉の深い味わい



「堂上蜂屋柿」は、お抹茶との相性が抜群

## 電源地域情報ひろば

# 特産品 開発情報

## 恐竜の時代・ジュラ紀の湧水仕込み きすい 祈水

ひがしとろむら  
青森県東通村  
地図 F

「祈水」は、冷涼地帯や山間冷涼地での栽培に適した東通産米「駒の舞」と、1億5千万年前のジュラ紀の地層を経た湧き水で、原材料からこだわりを持って仕込んだ日本酒です。

この「特別純米酒 祈水」と、さらに磨き上げた極上の香りを醸し出す「吟醸酒 祈水」は、村内の酒店だけの限定販売です。下北半島以外にはほとんど出荷されていない隠れた逸品です。

### DATA

【お問合せ】東通村商工会  
☎0175-48-2081  
【URL】http://www.yamasejuku.com/products/seisyu.html



東通村で味わっていただきたい



口あたりをさっぱりと仕上げた、  
香りも良いお酒

## 今春から本格出荷開始

## 七尾湾産の養殖「能登とり貝」

ななお  
石川県七尾市  
地図 I

高級食材のとり貝は、以前から七尾湾で水揚げされていましたが、安定供給を図るため養殖に取り組み、今春から本格出荷となりました。初夏までに約8,000個が県内や東京・築地市場などに出荷されます。

「能登とり貝」は、肉厚で大きく、噛むと口いっぱい広がる甘みの特徴です。天然にも勝る新しい能登の味覚としてぜひご賞味ください。

### DATA

【お問合せ】石川県漁業協同組合ななか支所  
☎0767-53-5181  
【URL】http://www.ishikawa-shokuzukan.jp/food/35



刺身や寿司ネタと  
して人気の高級食材



良質なわかめを生産する「わかめの里」・片句

## 高品質な片句わかめ

### 茎味噌とめかぶドレッシング

透明度抜群の美しい海水の中で、速い潮の流れにもまれて育った「片句わかめ」は、甘味があり、味が良いと評判です。

「茎味噌」は片句わかめの茎と地元産の味噌など、食の安全・手作りにこだわった逸品です。

「めかぶのサラダ」は、タマネギにあご（飛魚）のだしを加えて風味豊かに仕上げています。

どちらも、片句のお母さん達が心を込めて、手作りしています。

#### DATA

【お問合せ】わかめの里片句こいグループ  
☎0852-82-3721  
【URL】<http://kataku-koi-group.jimdo.com/>



地元産にこだわった逸品

島根県松江市  
地図 K



梅園には、梅の甘い香りが漂う

自然の甘みを活かした梅ジャム

## 種が小さく肉厚で皮が薄い

### おおい町の梅を使った特産品

福井県おおい町  
地図 J

若狭湾に面したおおい町は、種が小さく肉厚な福井梅の産地でもあります。町内の各所で栽培され、6月に収穫の最盛期を迎えます。

特におおい町の梅は、全体的に皮が薄いことから梅干しに適しているといわれております。

道の駅うみんぴあ大飯では「梅肉エキス」や「梅ジャム」、「梅カステラ」など、数多くのおおい町産の梅を使った特産品が販売されています。

#### DATA

【お問合せ】道の駅うみんぴあ大飯  
☎0770-77-4600  
【URL】<http://michinoeki-ohi.com/>

## 伊方の女性が丹精込めた

### 手づくりジャム・マーマレード

愛媛県伊方町  
地図 L

かんきつ王国「愛媛」の中でも伊方町は、温州みかんの他、清見、デコポン、はるか等々多くの品種の産地です。

半島の段々畑で太陽と潮風をいっばいに浴びて育ったかんきつ類を、地元の女性たちが丹精込めて手づくりした香り豊かなジャムやマーマレードが今、人気です。

新作の甘いサツマイモで作った「芋ジャム」も加わり、今年4月にオープンした観光交流拠点「佐田岬はなはな」（三崎フェリー乗り場横）でお買い求めいただけます。

#### DATA

【お問合せ】NPO法人佐田岬ツーリズム協会  
☎0894-54-2225  
【URL】<http://www.sadamisaki.com>



香り豊かな手作りジャム・マーマレード

## 龍馬が食べ損ねた好物

### ごめんシャモスキヤキ

高知県南国市  
地図 M

「ごめん（後免）」とは、龍馬の先祖にゆかりがある高知県南国市後免町のこと。平成20年に“ごめんシャモ研究会”が発足し全国に「100%純血軍鶏」のおいしさを広げる活動をしています。

坂本龍馬が凶刃に倒れる直前に食べるはずだった、とされるシャモ鍋をすき焼きにアレンジした『ごめんシャモスキヤキ』。『土佐の食1グランプリ』優勝、『全国地場もん国民大賞』銀賞など、多数の賞を受賞しています。

#### DATA

【お問合せ】企業組合ごめんシャモ研究会  
☎088-855-7418  
【URL】<http://www.gomensyamo.com/>



うま味と歯ごたえが違う。希少な純血種のシャモ肉





「霧のまち」の特色を活かした「霧レーザーショー」



熱気にあふれる釧路のまち

## 「霧のまち釧路」今年で31回目 くしろ霧フェスティバル

くしろ  
北海道釧路市  
地図 N

釧路は、1年のうちおよそ100日、霧に包まれるまちです。1985年に「くしろ霧フェスティバル」、通称「霧フェス」が誕生し、「海霧」を楽しむ市民参加型イベントとして釧路の夏の風物詩となりました。メインは釧路の夜空を彩る霧レーザーショー！

霧とレーザービームとサウンドが織り成す幻想的な空間を楽しむことができるアトラクションです。

### DATA

【開催日】7月24日(金)～26日(日)  
【会場】釧路市幸町緑地憩いの広場特設会場・耐震パース岸壁特設会場 他  
【お問合せ】くしろ霧フェスティバル実行委員会 ☎0154-42-1121  
【URL】<http://www.kirifestival.jp/>

## ふるさとを代表する民俗芸能

## ものうふれあい祭 はねこ踊りフェスティバル in 桃生

ものう  
宮城県石巻市  
地図 O

祭りのメインイベント「はねこ踊りパレード」は1,200人以上の踊り手が乱舞します。

この踊りの由来は、天明・天保の時代に度々類のない大凶作に見舞われていた村が、ある年、久しぶりの豊作に恵まれ、神への感謝の気持ちを込めて神社にお礼参りをした際、喜びのあまり村人が、笛や太鼓に合わせて面白おかしい身振りで踊り回ったのが、「はねこ踊り」の始まりといわれています。



「田打ち、田植え、刈取り」の稲作を模して踊る



全国に類を見ないリズムカルな踊り

### DATA

【開催日】9月第2土曜日  
【会場】桃生植立山公園  
【お問合せ】河南桃生商工会 ☎0225-76-3315  
【URL】<http://www.monou-s.miyagi-fsci.or.jp>

子どものうちから、地域の連帯意識が育まれる



「第13回ふるさとイベント大賞」奨励賞を受賞

## 電源地域情報ひろば

# イベント 情報

## 祝！東海村発足60周年

## 第37回東海まつり

とうかいむら  
茨城県東海村  
地図 P

今年は東海村発足60周年の節目を迎え、「未来へつなぐ」をテーマに、駅前大通りで山車やみこしの他、賑やかなイベントを実施します。

また、桜で有名な運動公園を会場に打ち上げる花火は、他では味わうことのできない臨場感溢れる花火を楽しむことができます。



東海村三大まつりの1つ。夏の夜空を豪華に彩る花火

### DATA

■花火大会  
【開催日】8月8日(土)19:00～【会場】阿漕ヶ浦公園  
■イベント  
【開催日】8月9日(日)【会場】JR東海駅東大通り  
【お問合せ】東海まつり実行委員会事務局 ☎029-283-2141  
【URL】<http://www.tokai-fes.com/>

## 子どもたちが主役の祭典！

## 小祢里

かけがわ  
静岡県掛川市  
地図 Q

「小祢里」は、掛川市横須賀地区で、明治時代中期から続く秋の伝統行事です。小さな山車(祢里)を中学生以下の子どもたちだけ引くもの。準備、太鼓の指導から当日の祢里の運行も、中学生以下の子どもたちだけで取り仕切る、全国的にも珍しいものです。

祭典当日は、子供たちが引き回す祢里と共に、太鼓や笛、威勢のいいかけ声が聞こえてきます。

### DATA

【開催日】9月19日(土)・20日(日)  
【開催場所】三熊野神社を中心に本町通り(遠州横須賀街道)  
【お問合せ】掛川南部観光案内処 ☎0537-48-0190  
【URL】<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/kankou/event/tiineri.html>

みんなで笑顔になれる大会

# 若狭路オープンウォータースイミング2015

福井県若狭町  
地図 R

水に恵まれた自然豊かな若狭を舞台に、オープンウォータースイミング (OWS) を楽しみませんか。「龍が眠る無人島」として言い伝えられる、若狭湾にひっそり浮かぶ『烏辺島』(無人島) を回って往復する3.8kmのコースと、『烏辺島』をスタートし世久見海水浴場をゴールとする1.3kmのコースが設定されています。自然と伝説、若狭湾の水の透明度を楽しむ大会となっています。エントリーの受け付けは7月31日までです。



若狭人の温かさを感じるOWS



自然と伝説、若狭湾の水の透明度を楽しむ大会

### DATA

【開催日】8月30日(日)  
【会場】若狭町世久見海水浴場  
【お問合せ】(一社)若狭路活性化研究所 ☎0770-47-1747  
【URL】http://wakasaji-ows.com

## 夏の風物詩

# 湯平大ソーメン流し大会

大分県由布市  
地図 S

『療養温泉の西の横綱』とうたわれた、湯平温泉の夏の恒例イベント、「湯平大ソーメン流し大会」です。

全長300m、最大傾斜30度の石畳の坂道を利用し、青竹で作った「とい」を設置して、ソーメンを流します。参加費は麺つゆ1杯分500円のみで、ソーメンは食べ放題です。

ソーメン流し終了後には、アヒルの人形を流して速さを競う「アヒルちゃんレース」も開催されます。

### DATA

【開催日】7月26日(日)  
【会場】由布市湯布院町 湯平温泉  
【お問合せ】湯平温泉観光案内所 ☎0977-86-2367  
【URL】http://www.yunohira-onsen.jp/



みんなで食べる流しソーメン

夏の暑さを忘れて食べる

## いちき串木野は小さな美術館

# アートフェスタ in いちき串木野

鹿児島県いちき串木野市  
地図 1

今年12回目となる「アートフェスタ in いちき串木野」では、いちき串木野市と近隣市町を中心とした県内在住の(一部県外)のアーティストが、オリジナルの絵画、書画、焼き物、木工芸品などの作品を展示・販売します。

体験型コーナーなどイベントも大人気です。

### DATA

【開催日】9月7日(日) 10:00~16:00  
【会場】いちきアクアホール  
【お問合せ】NPO法人いちき元気会 ☎0996-36-2521  
【URL】http://www.city.ichikikushikino.lg.jp



終日たくさんのお客でにぎわう



オリジナル作品が並ぶ

## 盛りだくさんのプログラム

# 第36回金武町まつり

沖縄県金武町  
地図 U

タコライス発祥の町、金武町の夏のイベント、『金武町まつり』が今年も開催されます。

ライブやカチャーシーなどのイベントや、たくさんの屋台の出店もあります。イベントが開催される両日、最後は花火で締めくくります。

来場者用駐車場の金武漁港から無料送迎バスが運行されますので、ご利用ください。

### DATA

【開催日】7月25日(土)・26日(日)  
【会場】金武町陸上競技場、金武町立中央公民館  
【お問合せ】金武町まつり実行委員会 ☎098-968-2111  
【URL】http://www.town.kin.okinawa.jp



みんなでお祭りを盛り上げる



ムスナイナイ大会(金武カチャーシー)





**平成27年度  
専門家派遣事業  
のご案内**

地域支援助成事業として、電源地域の抱えている課題の克服や問題の解決に向けて、専門家を地域に派遣し指導することに より政策立案や実施体制の構築に向けた支援を行い、地域の振興発展・地域住民の福祉の向上に寄与し、さらなる地域活性化を図ることを目的にした事業です。

**①事業内容**

電源地域の抱えている課題の克服や問題の解決に向けて専門家の現地指導（現状確認・アドバイス・情報提供等）を行います。

対象とする事業分野は問わず、支援の形態も講演会、実務指導など、電源地域のニーズにあつた形で対応いたします。

**②事業対象者**

電源地域の市町村、または電源地域の市町村から推薦を受けた事業者や各種団体など（電源地域の市町村を經由してお申し込みすることを原則とします）を対象といたします。

**③実施期間・派遣回数**

実施期間は平成27年4月から平成28年3月まで通年で実施します。派遣回数は原則3回の派遣を上限とします。

**④経費負担**

専門家への謝金については当センターが負担いたします。専門家への旅費（宿泊費を含む）については派遣を受ける市町村等に負担していただきます。

**⑤募集受付期間**

平成27年11月30日(月)まで。ただし、事業採択件数に達次第終了といたします。

**【お問合せ】**

地域振興部 振興調査課  
☎03-6372-7306  
ホームページ：http://www2.dengen.or.jp/html/works/sinko/senmon.html  
eメール：senmon@dengen.or.jp



平成26年度の講演会風景



平成26年度のワークショップ風景



**産品相談・商談事業  
および産品実践販売  
事業のご案内**

電源地域の地域資源を活かした特産品の販路拡大を目的にした事業です。

流通バイヤーとの面談の機会を様々な形で創出し、開発・改良・販路についての具体的なアドバイスを受けることができる。産品相談・商談会を実施します。定期開催型、地元開催型、随時開催型の3タイプとなっております。また、特産品を都市圏の百貨店等においてテストマーケティングを行う実践販売事業も実施しています。

さらに、特産品支援事業として、「アドバイザー（バイヤー）との意見交換」を組み込んだセット型の実践型ツアーを実施しています。

対象は、電源地域の市町村・都道府県の行政職員、各種団体事業者、NPO、個人、電力会社等で電源地域の振興に関わっている方、となっております。

本研修事業を皆様の地域のまちづくりにぜひご活用ください。

**【申込み・お問合せ】**

地域振興部 振興業務課  
☎03-6372-7305  
ホームページ：http://www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/sanpin.html  
eメール：hanbai@dengen.or.jp



平成26年度の地元開催型 産品相談会・商談会



**平成27年度  
研修のご案内**

当センターでは電源地域の長期的かつ自立的な振興をお手伝いするため、平成27年度から研修事業を行っております。当センターの研修事業は以下のような特徴があります。

- ① 電源地域のニーズの高いテーマ設定
- ② 経験豊富で専門的知見・ノウハウを有した講師陣
- ③ 先進事例紹介・グループワークなど具体的な実践的なカリキュラム

対象は、電源地域の市町村・都道府県の行政職員、各種団体事業者、NPO、個人、電力会社等で電源地域の振興に関わっている方、となっております。

**【申込み・お問合せ】**

地域振興部 振興業務課  
☎03-6372-7305



平成26年度の研修風景



**今号のWeb  
アンケート  
プレゼント**

「電気のふるさと」編集室では、今後のより良い誌面作りのため、Webアンケートを実施させていただきます。多くの皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。

なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で2名の方に、今号の表紙となっている御前崎市の、水揚げされたばかりの新鮮な「伊勢海老」をプレゼントいたします。

**■アンケート回答方法**

当センターのホームページ（文末参照）の入力フォーム内のアンケートにご記入のうえ、

## ■平成27年度研修一覧

No.	テ ー マ	時 期	日数	定員	場 所	参加費
1	住民と行政の協働によるまちづくりを学ぶ ～地域人材をつないで、共助を再構築する～	平成27年7月 16日(木) ～17日(金)	2日	20名	電源地域 振興センター	20,000円
	地域における多様化かつ複雑化した諸課題に対し的確に対応していくためには、住民と行政の信頼関係や連携を強め、それぞれの特性や持ち味を活かし、官民協働により解決を図っていくことが必要です。本研修は、多様な主体が協働して進めるまちづくりについて、講義や事例などからそのポイントを学びます。					
2	企業誘致による地域活性化策を学ぶ	平成27年10月	2日	20名	電源地域 振興センター	20,000円
	企業誘致は、「関連産業の集積等による地域経済の活性化」、「税収の増加」、「雇用機会の確保・拡大」等、地域経済に対する様々な波及効果が期待できるものであり、地域間競争が一層激化しています。本研修は、企業誘致の推進に向けた産業動向や関連政策、実務啓発、誘致事例について学びます。					
3	地域と連携したスマートコミュニティの実現に向けて	平成27年10月	2日	20名	電源地域 振興センター	20,000円
	地球温暖化の進展、さらには東日本大震災以降のエネルギー需給環境の変化に対応したエネルギー利用の最適化などから、再生可能エネルギーを含むエネルギーを効率的に活用する社会(スマートコミュニティ)の実現に向けた取り組みの推進が求められています。本研修では、スマートコミュニティ実現に向けた先進的な取組事例やそのポイントを学びます。					
4	地域の防災力向上を目指して	平成27年11月	2日	20名	電源地域 振興センター	20,000円
	原子力施設は、設計、建設の段階から国の安全審査や定期検査等を通して、安全には万全が期されていますが、東日本大震災など未曾有の原子力災害の発生を受け、原子力災害に対する防災体制の整備の徹底が図られています。本研修では、原子力防災業務関係者の果たすべき役割および基礎的知識の習得を図ります。					
5	少子高齢社会における地域づくりを学ぶ	平成27年11月	2日	20名	電源地域 振興センター	20,000円
	少子高齢社会がもたらす問題点として、労働人口減少や社会保障費増大等による国や地域財政の圧迫および家族や地域社会などの地域活力の低下が挙げられます。本研修では、少子高齢社会を前提とする地域一体となったコミュニティづくりや地域性を活かしたまちづくりのあり方について、講義や事例を通して学びます。					
6	農業で地域を元気に ～地域農業の活性化策を学ぶ～	平成28年1月	2日	20名	電源地域 振興センター	20,000円
	農業を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化、担い手不足、所得の減少など、厳しい情勢にあります。これからの農業は、新規就農者の確保に努めるとともに、直売所や農家レストラン等の6次産業化に関わる施策の推進や異業種とのさらなる連携を図る取り組み(農商工連携)が必要です。本研修では、農業で地域が元気になるための各種方策を学びます。					
7	地域資源を活用した地域ブランドづくりを学ぶ	平成28年2月	2日	20名	電源地域 振興センター	20,000円
	現在、地域独自の資源(特産品、歴史・文化、観光地等)を活用してブランド化を図り、地域の活性化に活かす取り組みへの関心が高まっています。本研修では、地域資源の差別化・高付加価値化への各種方策について、先進事例地等の講義やワークショップを通じて、そのブランド戦略について学びます。					

### 第5回

# 「電気ふるさと」

## フォトコンテスト

を実施中!

★★★賞および賞品★★★

最優秀賞 1点 旅行券3万円分

優秀賞 2点 旅行券1万5千円分

※入選された作品は、当センターのホームページ、「電気ふるさと～電源地域ニュース～」その他で紹介する予定です。

---

**募集内容**

テーマ (1)「電気ふるさとの風景写真」  
(2)「電気ふるさとの暮らし(生活風景・行事・イベントなど)」

撮影対象(電源地域)市町村は、建設準備中・工事中・運転中の発電所等が所在する市町村とその周辺市町村のことで、詳細は当センターのホームページ(<http://www2.dengen.or.jp/html/area/>)「電源地域とは」を参照ください。

**応募方法**

- 写真と応募用紙の両方を送ってください。
- カラーまたは白黒プリント、2L(キャビネ版)またはA4サイズとします。
- 必ず規定の応募用紙に必要事項を記載の上ご応募ください。
- 写真プリントは、応募用紙と必ずセットで送ってください。

お一人様3点までの応募とします。なお、1枚の応募用紙で応募できる写真は1枚です。

**応募資格**

日本国内に在住の方に限らせていただきます。

**受付期間**

平成26年10月1日～平成27年9月30日(当日消印有効)  
必ず郵送で応募してください(メール便不可)。郵送以外では受け付けいたしかねます。

※注意事項他の詳細は当センターのホームページ(<http://www2.dengen.or.jp/html/works/photocon/>)をご確認ください。

**送付先・お問い合わせ先**

〒103-0012  
東京都中央区日本橋堀留町二丁目3番3号(堀留中央ビル7階)  
(一財)電源地域振興センター 電気ふるさと編集室  
TEL: 03-6372-7305(平日10時～17時)  
FAX: 03-6372-7301  
E-mail: [furusato@dengen.or.jp](mailto:furusato@dengen.or.jp)

詳細はフォトコンテストのホームページをご覧ください

▶ [電気ふるさとフォトコン](#) 検索

「送信」ボタンを押して送信してください。

※切は平成27年8月31日(月)。

当選の発表は発送(平成27年9月下旬予定)をもって代えさせていただきます。

【お問合せ】  
電気ふるさと編集室  
TEL: 03-6372-7305  
ホームページ: <http://www2.dengen.or.jp/html/leaf/furusato/enquete.html>



水揚げされたばかりの新鮮な「伊勢海老」



しょうじま たかひろ  
庄嶋孝広さん

# KEY PERSON

## 協働の推進に向けた「つなぎ役」の養成を



今号から、各方面で活躍する「まちづくりのKEY PERSON」に、地域活性化の視点をお聞きします。今回は、「地縁団体の活用」という新たな視点で、民間と公務の両面で協働を推進する庄嶋孝広さんです。庄嶋さんには、7月16・17日に当センターが開催する研修No.1「住民と行政の協働によるまちづくりを学ぶ」の講師をお願いしています。

### 従前からある地縁団体の役割に注目

協働のまちづくりが言われ始めた当初、主なねらいは「行政とNPO等との協働による公共サービスの創出」でした。しかし、昨今では、「地縁団体、NPO、事業者、行政等による地域コミュニティの再構築」に変化してきています。

つまり、従前からある町内会・自治会、青少年健全育成団体、PTA、商店会などの地縁団体の役割に注目して、彼らとNPO法人、行政との協働によって、地域のコミュニティを再構築していく、というものです。

例えば、PTAには、「ママさんバレー」や「コーラス」「読み聞かせグループ」「外国語ボランティア」などのサークル活動がありますが、こうした小さなコミュニティがたくさんある地域は豊かです。こうした小さなコミュニティを介して地域に関わる人が増え、地域に活気が出ます。

最近、協働の考え方が広まる中で、地縁団体の役割がより積極的なものに据えなおされ、町内会や自治会からの研修依頼、地域団体が協働して地域コミュニティを再構築する協議会を、ファシリテーターとして支援する依頼も増えています。

彼らが長年地域の中で果たしてきた役割は大きいものがあります。行政も、そうした地縁団体を大事にしていきたい。

防災で言われる「自助・共助・公助」のバランスは、まちづくり全体で大事です。「共助」という意味では、これからは、地縁団体を基盤に新しい人材を取り込み、専門性を持つNPO等との連携・協働を推進していく必要があるだろうと思います。

### 地域の人材を見つけるためには

住民が、地域に関わりやすいタイミングは「子ども期」「子育て期」「シニア期」の3つがあります。現実には、リタイア後に、まちづくりに関わり出す人が多いため、地縁団体や、そこで活動する人材とのつながりが弱い。

なるべく、「子育て期」のタイミングで、PTAや「おやじの会」などの「子縁」を活かして、「地縁」に関わってほしいと思います。

地域には、様々なスキルを持つ人材がいます。そうした人材を見つけるために、行政は、各種の団体に携わっている人々が、お互いを知り合うことができる機会を設けてほしいと思います。

通常、役所が行う人材育成の講座は「縦割り」になっています。PTAは教育委員会、NPOは協働推進課、観光ボランティアは商工観光課など、それぞれが対象としている団体の人材育成講座を開きます。

そうではなく、横断的に、町内会・自治会、民生委員、保護司、青少年健全育成団体、PTA、商店会、NPOなどに携わる人々が一緒に参加して、自分とは違うタイプの活動を知ってもらい、様々な人材がいることを知り、そこから協力関係を築いていきます。

最初から「地域課題の解決」というように構えると難しくなります。課

題が浮上した時に、「あの活動をしている団体の〇〇さんと〇〇さん」が持つスキルをつないで活用する。そうすると、「協働」がより具体的になります。

### 地域に求められている「つなぎ役」

今必要なのは、地縁団体やNPO、事業者などの中に、そうした「つなぎ役」を増やすということだと思います。

私は、非常勤職員として勤務する東京都大田区で、この「つなぎ役」を養成する「区民活動コーディネーター養成講座」を行っています。

地縁系のリーダー層は「つなぎ役」の意識を持って、「11ターン」などの新しい人材が地域活動に入りやすい工夫をしてほしいと思います。

今、地縁系とNPO系の人材が分断されている状況があります。まちづくりにおいては、専門的課題に取り組むNPOの存在感が増していますが、彼らもそうした地縁団体を上手に活用してほしいと思います。一般住民の信頼や、行政との関係など「地縁」ブランドの利用価値は大きいものです。ぜひNPO系の人材にも「地縁」に飛び込んでいただきたい。こうした双方向の「つながり」が求められています。

私の役割は、地域に関わりを持っていく人、「つなぎ役」を生み出そうという人を増やすということだと思います。(談)

### 略歴

昭和49(1974)年、福岡県志摩町(現・糸島市)生まれ。平成9(1997)年、慶応義塾大学経済学部卒業。アンダーセンコンサルティング、特定非営利法人東京ランボを経て、平成18(2006)年市民社会パートナーズを開業。地域コンサルタント、地方公務員を兼業する「民間と公務の二刀流」。PTA会長、NPO法人理事などの地域活動者でもある「チクメン(地区メン)」。雑誌「ブレジデント」に掲載の『07年日本を動かすキーマン』100人図鑑で紹介されている。共著に『市民自治のこれまで・これから』(公職研)